

総義歯製作

～チェアサイドとラボサイドで共有したい模型の観察と分析の重要性～

神奈川県歯科技工士会 水野 邦浩

日常臨床において総義歯治療は「適切な診査・診断と患者の主訴やニーズを歯科医師、歯科技工士が十分に理解する。それに基づき治療および総義歯製作を行うことが、患者満足度の高い総義歯を提供することにつながる。」と考えている。

超高齢化社会となった現在では、患者自身の高齢化による老化の進行・患者への口腔衛生指導の難しさ・生体の変化(顎関節・筋・骨・粘膜)や機能の変化(低位咬合・下顎位の偏位)などに起因して、咀嚼機能・嚥下機能・発音構音機能などの生理的な状態を総義歯治療にて機能回復することが難しくなっている現状がある。

講演では、概形印象・作業模型を観察・分析し、口腔内で起きていると思われる歯槽骨の吸収や顎堤粘膜の状態や表面性状から、辺縁形態の観察・粘膜面の観察・解剖学的ランドマークの観察など、得られた情報から口腔内に装着される製作技工物に機能を追加し、生理的な機能を反映させる為には、どのようなアプローチが必要になるかを解説したい。